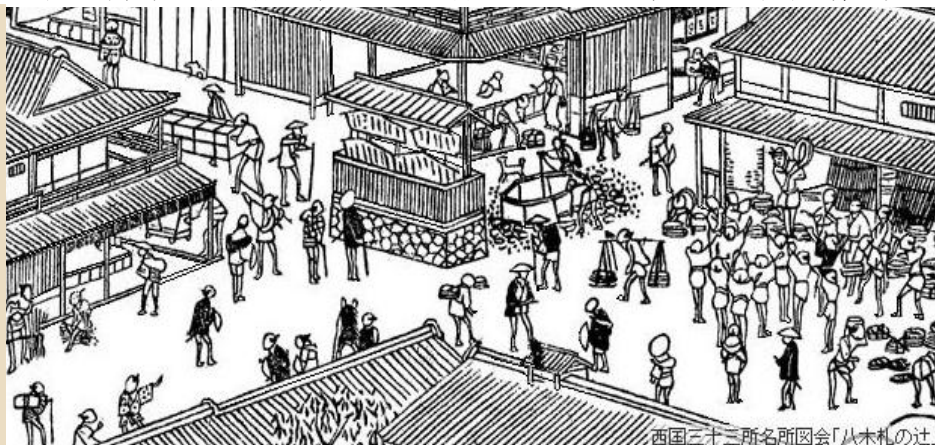


大和八木 まちづくり 新聞

No.06
2011
9月号

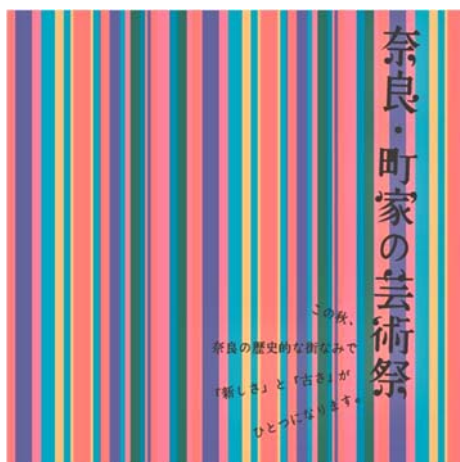
特定非営利活動法人八木まちづくりネットワーク



西国三十三所名所図会「八木札の辻」

NEWS

■ 奈良・町家芸術祭HANARART



HANARART はならあと

平成23年10月8日(土)～平成23年10月30日(日)
会場：なやま(奈良市)、藤山(宇陀市)、大和(大和郡山添町)、今井(橿原市)、
八木(橿原市)、三輪(橿原市)、宇陀(宇陀市)、五條(五條市)
主催：特定非営利活動法人八木まちづくりネットワーク
http://hanarart.web.fc2.com/

「奈良・町家の芸術祭HANARART (はならあと)」は、奈良県と県内で活動するまちづくり団体が連携して歴史的な町並み地域で開催する、まちづくり型のアートイベントです。

奈良県には、橿原市今井町、宇陀市松山地区、五條市新町地区などの重要伝統的建造物群保存地区だけでなく、八木のように伝統的な町家や歴史的な町並みを有する地区が多数存在しています。

が、近年、空き家の増加、またその老朽化の進行により、良好な景観が失われ、地区の活性化、安全性が阻害されています。

八木でも空き家が目立ってきていますが、このイベントに合わせていくつかの町家などが公開され、アーティストらによる展示などが行われる予定です。

■ 旧平田家に素屋根かかる



愛宕祭頃から札の辻で工事中の旧平田家に素屋根がかかりました。天蓋の下屋根の瓦葺などどんどん工事が進んでいきます。

どんな施設になるか見学会も近く開催されるようです。

■ 旧本町の折箱屋で立山

昔にぎわった旧本町の路地角の旧折箱屋で関西大学のチームによる立山が作られました。

東日本大震災で亡くなった方々に思いを寄せ人型と胸の数字でその数の多さに愕然としました。特に若い人た

ちがたくさん訪れて話題にしていたようです。

また同じチームで井戸の辻の空き地で「ひもろぎ遊び」と称して子供達とのお絵かきイベントも開催され、いつもお世話になりありがとうございます。と少し違う愛宕祭の宵を彩りました。

■ 全国町家再生交流会in 今井町

全国町家再生交流会は、町家の評価や活用を図った事例の報告や課題等について話し合い交流することを目的として、平成17年に京都市で第一回が開催されました。

この交流会は「ストックを活かすまちづくり」、「地域固有の文化や歴史の見直しの中での町家再生」をテーマに、各地の市民活動団体や一般参加者のほか、多くの研究者や行政担当者も参加してきました。

第4回全国町家再生交流会は、「地方都市からの町家再生～つながり、ひろがる町家の暮らし～」をテーマに、奈良県橿原市今井町において開催いたします。



（NPO法人今井まちなみ再生ネットワーク主管）

2011年、今年の愛宕祭

伝統と、盆踊りと、がんばれ東日本！



今回はおなじみの「畝傍駅」を取り上げます。

現 在はJR西日本の駅ですが、最初は大阪鉄道という私鉄が、明治20年、大阪湊町から畝傍御陵への参拝を目的に計画を始め、御陵近くの今井に駅を作る計画が進められていました。当時の鉄道は神社仏閣参りなどの観光のために敷設されるのが一般的でした。畝傍御陵の参拝用の駅ですから「畝傍駅」だったわけです。しかし、当時の今井の人たちは、今では考えられない理由で反対し、駅の計画は八木に移されることになり、名前がそのまま残ったということです。八木にあって畝傍駅と呼ぶのはこのようなわけがあったのです。

駅が開業した明治26年当時の畝傍駅境界は八木の町はずれでしたが、駅ができることで、まちの中心が、南北の下ツ道から駅前の東西の道になりました。その後、この駅の近くに役場、銀

行、郵便局、旧制畝傍中学校が設けられるのも無関係ではありません。この鉄道が下ツ道を横切るところには、踏切の他に、今の言葉で言えば「跨線橋」が設けられていましたが、この跨線橋は近年撤去されました。

畝傍駅は畝傍御陵に参拝される皇族の乗降駅として活用され、貴賓室が設けられた数少ない駅でもありました。明治26年築の駅舎は昭和天皇御大典記念として昭和3年に建替えられました。残っている写真によると、この駅も白ペンキ塗の洋館だったようです。

その後昭和15年の紀元2600年に、橿原神宮を中心として国家プロジェクトが行われることとなり、駅舎の建替えが行われました。現在ある三代目の駅舎です。この駅舎は橿原神宮造営で使われた台^{たい}檜(台湾産檜材)をこの駅でも採用し、駅舎が白木造といういかにも神道を思わせる建築に仕上げたところが特徴です。当時は大量の乗降



客をさばけるよう、団体待合室を設置していたのですが、この部分は取り壊されました。現存する貴賓室は、照明器具・家具が取り払われて、過去の面影はありませんが、ここに設置されていたシャンデリアが、JR西日本に保管されていることが分かりました。

また、現存する東行きプラットフォームは昭和3年の標識があり、築83年という古い建築です。反対の西行きプラットフォームは記載がありませんが、装飾などから推定すると東行きより古いようです。

これ以外にもプラットフォームがあり、それが吉野鉄道でした。この鉄道は駅から東に大きくカーブして橿原神宮駅を経て吉野に至る鉄道でした。この鉄道は現在ありませんが、線路を敷設してあった場所の痕跡は町の中に残っています。また、この鉄道敷設に必要な土砂は近くを掘削し、そこを池にしたと云われています。



■よしてつの池

現JR畝傍駅の南側に「よしてつの池」と言われた池があったことはまだそんなに遠い昔の話ではないと思います。

「よしてつの池」の名前の由来を先日、八木の西村政一さん(近鉄OB)、南八木の崎山圭俊さんに聞かせていただきました。

まずわかったことは、当時の国鉄畝傍駅は駅舎としてもうひとつの顔があったということです。国鉄畝傍駅に



吉野鉄道吉野線(現近鉄吉野線)が乗り入れ国鉄畝傍駅が吉野への連絡駅であった時代がありました。

現JR畝傍駅は2本のホームがありますが、当時は南側にもう1本ホームがあり(今は線路沿いの道になっています)、そのホームが吉野鉄道(現近鉄吉野線)の吉野への乗り換えホームでした。大正7年頃から吉野山地での林業が大変盛んであったため、貨物需要の取り込みを目的に国鉄畝傍駅との接続構想が生まれ、大正13年11月1日に吉野鉄道の小房線(檀原神宮駅

一小房駅一畝傍駅)が開業しました。そして、その小房線の敷設のために当時の畝傍駅南側で土を取ったようで、その跡が池になり「吉鉄の池」と言われたのが理由のようです。今は元通りになり住宅地になっています。

その吉鉄・小房線は昭和25年に休線となりました。

元2600年(昭和15年)、旧制の畝傍

中学(現・畝傍高校)の2年生であった崎山さんはこの吉鉄(吉野鉄道)の小房線を利用して檀原神宮の草刈りの奉仕活動や高市郡の運動会参加などで檀原神宮駅まで行ったそうです。1時間に1本で1~2両連結であったようで、当時でも乗客は少なかったようです。畝傍中学校で学ばれていた崎山

さんは、「昼頃になると決まったように貨物列車が来るのが窓から見え、いったん停車して、そしてピッピートと吹鳴して畝傍駅に向かって走り出すともうすぐ弁当の時間だとの合図になっていたんです」と懐かしそうに話していただきました。また学校でのこんな思い出もお聞きしました。

傍中学では各クラスの級長、副級長



は銀色の星形の襟章、10名ほどの成績優秀者は小判型の金色の襟章を付けることになっていて、席も級長が一番後ろのSMI、副級長が一番前のSMIに決まっていた、中学5年生の級長に

参考資料:近畿日本鉄道100年の歩み/2010、檀原市史/1986、目で見る檀原・高市の100年/1993 郷土出版社

建築メモ:JR西日本桜井線畝傍駅駅舎、旧貴賓室/S15、旅客上屋/S3、袴線橋(S造)/S54



八木のいろいろ情報

★JR畝傍駅駅舎活性化への提言

平成16年度にJR畝傍駅活性化懇話会が橿原市の主催で開かれ、提言書が提出されましたが、17年4月のJR福知山線の脱線事故により活性化に向けた活動は中断し、そのままとなっています。(下の写真は貴賓室で使われていた照明器具で、今も大阪市にある交通科学博物館に残っています。)



★畝傍駅のひとつま-七夕かざり

7月に入ると畝傍駅の入り口に「七夕かざり」があらわれました。お母さんと子供さんらで飾りつけられたようです。

畝傍駅駅舎玄関横のエントランスでは、年間を通じて活発に活動されている八木町の老人会である八寿楽木会やすらぎの会員の方々が、4月より毎朝ラジオ体操をされています。

また世話役さんをはじめ会員の方々は、毎朝のラジオ体操の前に、駅舎や



★畝傍駅貴賓室前の「橿原神宮」の



日時:2011年8月18日(木)~21日(日) 10:00~17:00
 場所:奈良市中新屋町2-1 奈良町物語館(0742-26-3478)
 <協賛内容>
 ◎奈良県内の歴史町並み地区のバザール、フェア、有馬パン工房、越前パン工房
 ◎まち歩き発見の館(伊勢崎 橋) (株) 京都多文化ハウス(ターボ館) (町家くまの館) 橋
 ◎鳥居もやまハウス (三島) のりあ、パンプレート等

碑

大正4年にこの碑文は建設されました。ただ正面に大書の「橿原神宮」の



文字。これは碑というよりも道案内のようにも看板のようにも見えますが、その意図するところは何だったのでしょうか。道案内であれば、よくあるように矢印を付けるか、西南5丁などその意図するところを書き込むでしょうか何もなく、ただ「橿原神宮」と立派な字で書



かれています。

もう一回り大きい「橿原神宮」とだけ書いた碑は、橿原神宮一の鳥居の右

活動に想う

伝統の愛宕祭の賑わいの余韻が残る八木の町に少しだけ秋が近づいています。立山を見る子供たちの表情、夜店や催しを楽しむ人たち、暑さを忘れて盆踊りに参加する男女、今年も年に1度、八木の町は大変賑わいました。きっと愛宕祭を楽しみに八木に帰ってこられた人が沢山おられたはずです。

八木を離れられている方々にとってはここで出会った人たちや懐かしい生活、楽しい経験と共に町の景色や感触はいつまでも大きな存在です。八木の魅力は沢山あると思っていますが八木を離れて生活されている方が時々「ちょっと八木へ行って来る」、「八木へ帰ってくる」と言いたくなる町にするために、なによりも受け継いできた歴史、文化を大切に、活かしながら楽しみとしながら活動していくつもりです。

我々の活動の出発点でもある「札の辻」の旅籠が市指定文化財として改修・保存される事になり工事が進んでいます。「旅籠」が地域の人の集まる場所、八木に帰ってくる人がまず訪れる場所として、また八木の魅力と賑わいの溢れるまちづくり発信拠点になる日を待ちながら活動を続けていきたいと思っています。そして今年度、八木まちづくりネットワークの理事長を退任された好川忠延様には将来の貴重な八木の財産となる活動を続けて頂きましたことに心よりお礼申し上げます。

八木まちづくりネットワーク
 理事長 平田元

特定非営利活動法人
 八木まちづくりネットワーク